

夢を追う卒業生 その14 平成30年10月9日

九州大学での学び

◇今回は、清水孟彦さん（九州大学共創学部）のレポートです！

こんにちは、九州大学共創学部 1 回生の清水孟彦です。みなさんが今日の大学をイメージできるように、自分の大学での生活、また大学生活を通して思ったことを伝えさせていただきます。

具体的には、①で、私が通っている九州大学と共創学部での生活について説明します。②では、私が夏季休業中に参加したシンガポールインターンシップについて説明します。最後の③では、大学生活を通して私が学んだこと感じたことを主観的に話させていただきます。関高校を卒業して、まだ半年しか経っていませんが、多くのことを学びました。少しでも多くのことを本稿で高校生に伝えられたら幸いです。

① 九州大学と共創学部



私は九州大学に通っています。住んでいる場所もキャンパス内の寄宿舍です。まず初めに、九州大学について紹介します。九州大学には、3つのキャンパスがありますが、私は、伊都キャンパスという日本で一番大きく、田舎のキャンパスで学んでいます。どれほど田舎かといえば、最寄りの駅まで歩いて 50 分、昼はアナグマ、夜はイノシシがキャンパス内を闊歩しているほどです。また、初夏になるとキャンパス内でホテルも見れます。

立地条件が悪いと散々に言われている九州大学ですが、教育面のサポートでも光るものがあります。まずは、授業のバリエーションと質です。従来の経済学や法学、微積分学などに加え、「アントレプレナーシップ入門（起業系）」や「自炊塾」のようなユニークな講義も多いです。一方で、法学や経済学、プログラミングなどでは、日本を代表する先生も多くいらっしゃるのレベルの高い内容を学べます。

次に、大学のサークル、部活、学生団体の豊富さです。最近では、起業部という会社を作る部活や九瑛舎という学生が運営する塾など九大生が運営する社会貢献のための団体も多く存在します。運動系部活では、七大戦という旧帝国大学での試合もあり他大学との交流もできます。私も柔道部として、北海道で試合をしました。それ以外にも、交流を目的としたサークルやバンドもあります。

ちなみに私は柔道部と兼部して NPO 法人 MPI（経営政策勉強会）の九州支部に入り、ロジカルシン

キングやコンサル業務の勉強をしています。

最後は、九大の国際性の高さについてです。九大は現在、「世界大学ランキング日本版」で第5位に位置しています。ランキングで高いからいいというわけでは全くありませんが、九大は今、急成長していることが分かります。その理由は国際性が高いからです。海外からの留学生の数は年々増加しています。私もフランスから来た留学生のチューターをしており、日本での生活のサポートをしています。逆に、九大生が留学するためのプログラムや奨学金制度も多くあります。将来海外で働きたい人にとって支援になると思います。



以上が、九州大学の良さでしたが、次に私が所属している共創学部についても簡単に説明したいと思います。共創学部は今年新設された13個目の学部です。名前を見て何をする学部なのかわからないと思います。共創学部は、従来の学問方法のトレーニングを中心とした教育ではなく、人類が直面している地球規模の課題を解決できる新たな高度な知識とスキル養成を目指した学部です。具体的に言えば、経済学部は経済を法学部は法を勉強するのが普通ですが、共創学部はやらなければならない分野はなく、各々が見つけた課題を解決するために必要な知識やスキルを身に着けます。したがって、文系理系といった枠はありません。国内国外問わず、問題解決に興味がある人は歓迎します。

②シンガポールインターンシップ



私は、夏季休業を利用して、シンガポールにインターンシップに行きました。インターンシップというのは、簡単にいうと職場体験です。就職を見据えて実際に職場で仕事を体験するのです。私が行ったインターンシップは、スタートアップを体験するものでしたので前述したインターンシップとはまた違います。起業するためのビジネスプランを考え、投資家の前で発表しました。高校まででは学べない、起業運営やイノベーションの起こし方を学びました。さらに、リーダーシップ論も学ぶことができ、高

校までの活動と結びつけることで有意義な時間を過ごすことができました。

② 大学での学び



この半年で本当に多くのことを学びました。すべてをここで伝えることはできないので、2つのことについて話したいと思います。

1つ目は、時代に追いつこうと意識することです。実は、私たちが受験勉強で学んでいる内容はかなり昔の話です。「かなり昔」というのはおよそ10年前までのことです。たかが10年と思うかもしれませんが、この10年で世界は大きく変化しています。特にテクノロジー分野の成長は著しいです。日本はこの変化についていけないように思えます。MPIでFinTechを学び、インターンシップで20代の起業家の方の話を聞いて、自分は今の社会の「便利さ」を享受できていないように感じました。私がみなさんに伝えたいのは、「現代社会に追いつけ」ではありません。とくに高校生のみなさんは、受験勉強という壁がある中で、過去より今を学べと言っても難しいと思います。私が伝えたいのは、受験勉強の先に待っている生活は、本当に新鮮で、おもしろいものばかりです。ぜひ、好奇心を持ち、主体的に勉強してほしいと思います。そして、乗り越えた先の新しい社会を楽しんでください。

2つ目の学びは、自分の価値をいかにして発揮するかを考えるようになったことです。この半年で多くの大人に出会いました。人事の方の話も聞きました。全員が口を揃えて言うことは、「大学なんて関係ないよ」ということです。

誤解してほしくないのは、これは学歴フィルターを否定した言い方であって、「大学に行く意味はないよ」といっているわけではないということです。これは、大学を卒業してしまえば、その人自身が見られ、その人自身の価値を評価するという意味です。もっと厳しく言えば、その人自身の価値はその人がどんな結果を残したか、に尽きるという意味です。私は、自分の「価値」をいかに人に伝えるかについて現在勉強しています。自分しかもっていない強みはなにか、それをどうやって社会に認めてもらうかを考え続けています。それと同時に、価値のない人はいないと思い、他人の強みを引き出し、チーム内で活躍させるにはどうしたらいいか、リーダーシップやマネージメントの観点から研究したいと思い、すでに少しずつ始めています。

最後に、「大学は関係ない」のであれば、なぜ社会はいまだに大学へ行くことを主流にしているのでしょうか。これに関しては、ぜひ高校生のみなさんにも考えてもらいたいです。私含め、多くの人は親御さんの経済的支援なしでは大学へ通えません。そこまでして大学へ行く意味はあるのでしょうか。参考

書もそろい、インターネットが普及した日本では、お金をかせぐだけなら大学へいく必要はないかもしれません。実際、少ないですが高校生で企業する人もいますし、プログラミングを独自で学んでいる高校生もいます。大学の授業はつまらないものも多く、寝てる人も内職をしている人も多くいます。中には、大学へ行く時間を最小限に抑えている人もいます。なんのために大学へいくのでしょうか。まだ高校生のみなさんは実感がわかないと思いますが、学業に関わらず大学生活でしたいことをビジョンとして持ってほしいと思います。それと同時に、高校生のうちにしかできないこともあります。受験勉強もその一つです。高校生活も一瞬一秒を大切に過ごしてほしいと思います。